

「基礎看護」学習指導案

広島県立広島皆実高等学校

(教諭・大柱 眞奈)

本学習指導案のポイント (高校教育指導課指導主事 宮本 洋子)

本学習指導案では、対象者に必要な看護援助の方法を具体的に検討させ、成果や課題を共有し、看護者が援助の目的を達成するために大切にしている視点について気付かせことができるよう工夫された授業展開となっています。また、生徒に事例を想定したVTRを視聴させ、患者の状態や背景を具体的にイメージできるようにしており、経験が少ない1年生でも既習の知識・技術を活用して問題点を見出し、必要な看護援助は何かを考えられるように工夫されています。

1 日 時 令和7年11月4日(火) 4限

2 場 所 看護棟2階実習室

3 対 象 衛生看護科1年生 40名

4 基礎看護(3) 日常生活の援助 キ 清潔と衣生活(洗髪)

5 単元の目標

清潔の意義と清潔保持の必要性について知識と技術を習得し、対象の心身の状態に応じて科学的根拠に基づき、安全・安楽な清潔援助の方法を選択し実践できる能力を育てる。

6 単元について

(1) 単元観

本単元では、身体の清潔と健康との関連や清潔の意義と清潔保持の必要性について理解し、清潔行動や習慣に影響を及ぼす心身の状態や環境因子及び清潔の援助について関連する技術を身に付けることをねらいとしている。また、対象に応じた清潔援助の方法を選択し、対象のADLや今までの清潔習慣など心身の状態を考慮しながら個別性のある援助方法について考える態度を養う。

(2) 生徒観

生徒は5年一貫看護教育の1年生であり、「基礎看護」「人体と看護」「看護臨地実習」等の専門科目学習している。「基礎看護」ではコミュニケーション、感染予防、環境調整、食事と栄養、活動と運動、衣生活について既習し、関連する技術について校内実習で習得している。生徒へのアンケート調査において、基礎看護の校内実習では援助を必要とする患者の状況を具体的に想定して、必要な声掛けや援助は何か考え援助を実施することが「よくできている」と回答した生徒は42.5%、「だいたいできている」と回答した生徒は57.5%である。校内実習では、患者への説明、実施を一つ一つ丁寧に取り組もうという姿勢が見られるが、援助を終えるまでの時間を要することが多く、患者への負担感につながる可能性がある。その背景に生活体験の未熟さや看護臨地実習での臨地における経験が少なく、対象者へ援助するイメージが想定できておらず、具体的な声掛けや看護援助の方法を、既習している学習と結び付けられていないことが要因の1つとして考えられる。

(3) 指導観

対象者は病気により今までの清潔習慣を取り入れることができなくなったこと、またそれに伴い心身への影響につながっていることを気付かせるため、生徒が理解しやすい事例を設定し、既習の知識・技術を活用して問題点を見出し、必要な看護援助は何か考えられるように工夫を行った。また、事例を想定したVTRを生徒に視聴させ、患者の状態や背景を具体的にイメージできるように工夫した。対象者に必要な看護援助の方法を具体的に検討させ、立案した援助内容を実践することで、気がついた成果や課題を共有し、看護者が援助の目的を達成するために大切にしている視点について気付かせ、看護実践能力を養うことを目指したい。

7 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
清潔の意義と清潔保持の必要性について理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付けている。	安全・安楽な清潔の援助を目指して課題を発見し、科学的根拠を明確にした上で実施上の留意点を考え、倫理観を踏まえて解決策を見出している。	清潔の援助について自ら学び、対象に応じた援助方法を考え実践する活動に、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

8 単元の指導計画(全12時間)

時間	学習内容	評価				評価方法
		知・技	思・判・表	主	評価規準	
1	頭皮の構造と生理 洗髪の意義と清潔保持の必要性 洗髪方法の種類、洗髪用具の理解 (1時間)	◎			洗髪の意義と清潔の保持の必要性について、頭皮の構造と生理を踏まえ理解し、患者の状態に応じた洗髪方法について基礎的な技術を身に付けている。	①②④
2	洗髪援助の実際 事例提示・計画立案 (2時間)	○	◎		事例患者に適した洗髪援助の方法について科学的根拠を明確にした上で実施上の留意点を考え、倫理観踏まえて解決策を見出し表現している。	①②④
3	計画に基づいた実践練習 援助内容の振り返り (2時間)		○	◎	事例患者に適した洗髪方法を適切にかつ安全に展開できるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	①③

4	患者の個別性に応じた看護援助の方法の思考 (本時) (1時間)		◎	事例患者の心身の状況に応じた安全・安楽な洗髪の援助を目指して課題を発見し、科学的根拠を明確にした上で実施上の留意点を考え、倫理観を踏まえて解決策を見出している。	
5	洗髪デモンストレーション (1時間)		◎	洗髪の方法について、自らが考えた援助方法と実際の援助を照らし合わせ改善点を見出している。	①③
6	校内演習 事例患者への洗髪 (5時間)		○ ◎	洗髪の援助について自ら学び、対象に応じた援助方法を考え実践する活動に、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	①③④

①授業に取り組む姿勢 ②ワークシート ③定期試験

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・事例患者の課題を発見し、洗髪の援助を思考することができる。
- ・援助の目的を達成するために看護者として大切なことは何かに気づき、表現することができる。

(2) 観点別評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	事例患者の心身の状況に応じた安全・安楽な洗髪の援助を目指して課題を発見し、科学的根拠を明確にした上で実施上の留意点を考え、倫理観を踏まえて解決策を見出している。	

(3) 準備物 ・教科書 基礎看護 (文部科学省) ・副教材 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護 [3] (医学書院) ・ワークシート

(4) ルーブリック

A (十分満足)	B (おおむね満足)	C (努力を要する)
事例患者の心身の状態に応じた安全・安楽な援助の方法について課題を発見し、解決策を見出し活用しようとしている。	事例患者の心身の状態に応じた安全・安楽な援助の方法について課題を発見し、解決策について見出している。	事例患者に対して安全・安楽な援助の方法を考えることができる。

(5) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
導入 8分	1 本時の目標の確認をする 2 本時の内容を理解する	◇本時の目標確認 (T1:授業者、T2:生徒間巡視) ◇授業内容を説明する (授業内容) ・事例患者のVTRを視聴し、患者へ洗髪を実施する目的を再確認する。 ・洗髪を実施するための工夫について考えた援助内容、根拠を発表する。 ・援助の目的を達成するために、看護者として大切なことは何かグループで思考し、共有する。	
<p>皆実花子さん 50歳代、嘔気・嘔吐などの消化器症状が続き、自身で起き上がったりすることが難しく、ベッド上で清拭、洗髪を実施している。看護師はケリーパッドを用いて、ベッド上で洗髪を実施した。39℃の湯を準備し、ピッチャーを使用して髪をすすいだ。皆実花子さんから「爽快感が得られない」と訴えがあり、援助方法を工夫して再度洗髪を実施することとなった。</p>			
展開 35分	3 課題を見いだす 4 課題解決を行う 洗髪を計画する際に看護者として大切なことは何か思考する 5 他者と意見を共有する	◇事例患者の状態に応じた洗髪の工夫点について、まとめた内容を発表させる。 ◇他のグループから発表した内容について感想を述べさせる。 ◆患者の思いにどのような方法で寄り添っていたか、良い点や改善点について述べさせる。 (発問)「援助の目的を達成するために、看護者として大切なことは何か。」 ◇グループワークを行い、患者へ援助の目的を達成するために、看護者として大切なことは何か考えさせホワイトボードに記入させる ◆事例患者に援助の工夫が必要だと考えた理由を想起させ、立案した清潔援助を行うことで得られる効果を考えさせる。 ◇グループで考えた内容について発表させ、学びを共有する。 ◇患者の心身の状況に適した援助方法は何か考え、援助に反映していくこと、基礎・基本に基づき安全・安楽に実施できるのか検討することが大切であること、優先順位を決め援助を計画することが必要であることを説明する。	安全・安楽な洗髪の援助を目指して課題を発見し、科学的根拠を明確にした上で実施上の留意点を考え、倫理観を踏まえて解決策を見出している。 【思考・判断・表現】 授業に取り組む姿勢 (ワークシート)
まとめ 7分	6 振り返りを行う	◇本日の学びをどのように活かしていきたいかまとめ、数人発表させる。 ◇次時の説明を行う。	